

Distrib. Taiwan (Formosa)

The present fungus has been known to be parasitic on various species of the genus *Rubus* in Taiwan, and is now newly added to the mycological flora of Japan. *Rubus Sieboldi* is a new host plant of this species. In Japan *Appendiculella calostroma* (Desm.) v. Höhn. has hitherto been known to be a unique Meliolaceous fungus parasitic on the plants of the genus *Rubus*.

* * * *

89. **Botryosphaeria dothidea** (Moug. ex Fr.) Ces. et de Not.

90. **Botryosphaeria quercuum** (Schw.) Sacc.

両者ともに分布および寄主範囲の極めて広い種類である。通常子座中には 2~3 個の子嚢室を埋没して生ずるが、しばしばただ 1 室からなる子座を生じ、このため *Physo-lospora* 属などの菌として記載されていることがあり、したがって異名が非常に多い。

91. **Amphisphaeria palmicola** (Hino et Katum.) Hino et Katumoto.

子嚢殻の頂部は寄主の表皮を破って疣状に突出し、また子嚢頂部には沃度で青変する輪状物を含むことから *Amphisphaeria* 属に移した。

92. **Leiosphaerella livistonae** Hino et Katumoto (新種).

ビロウに寄生し、中央部のやや膨れた長円筒形の子嚢殻を寄主組織中に埋没して散生する。口孔部はほとんど突出せず、外観は微細な小黑点として現われるが、肉眼ではほとんど認められない。子嚢頂部には沃度で青変する輪状物を含み、また子嚢胞子は長紡錘形、中央に 1 隔膜を有し無色、両端は漸細し尖っている。子嚢および子嚢胞子の形態は、*Amphisphaeriaceae* 中の *Leiosphaerella* 属の特徴によく一致する。インドおよびパキスタンに *Phoenix* 属に寄生する *L. phoenicis* が知られているが、筆者の菌は子嚢および子嚢胞子の長さがいちじるしく長い点で容易に区別される。

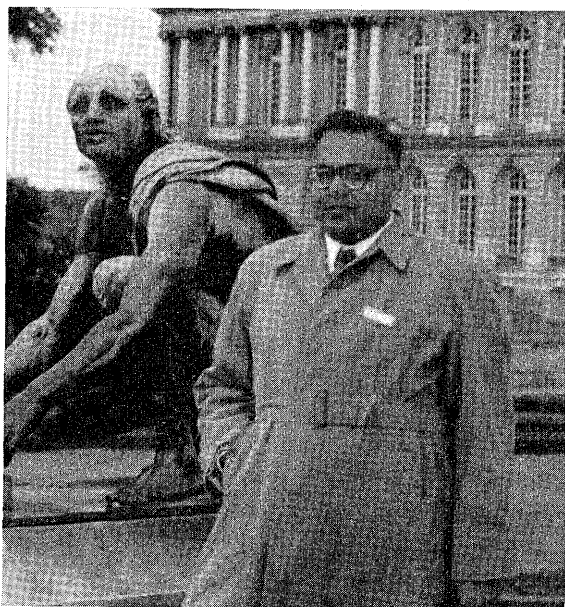
93. **Meliola formosensis** Yamamoto (日本新産)。

ホウロクイチゴの葉に寄生する。日本には *Rubus* 属に寄生する *Meliolaceae* の菌としては *Appendiculella calostroma* (Desm.) v. Höhn. のみが知られていたが、台湾で記載された本種が九州屋久島に分布していることを明らかにした。

□マヘシュワリ教授を悼む インドの Delhi 大学 P. Maheshwari 教授 (1904-1966) がこの 5 月 18 日突然死去されたことを悼む。

P. Maheshwari は 1904 年 11 月 9 日インド Jaipur に生れ、そこで幼青年時代を送り、1921 年 Allahabad の Ewing Christian College に学び 1925 年卒え、さらにそこで M. Sc. (1927), D. Sc. (1931) の学位を得、この間、被子植物の形態学、解剖学、発生学を研究した。その後 Agra; Allahabad, Lucknow, Dacca 大学に教鞭をとり、1949 年

Delhi 大学の教授となり今日までその職にあった。1936~39 年ヨーロッパに遊学、その頃から被子植物の発生学を専ら研究し巧みな実験技術によって数々の業績をあげ、1950 年に当時の発生学の梗概をまとめて、*An introduction to the embryology of Angiosperms* (New York) を出版し、その後、組織培養などを含む実験形態学、実験発生学の新しい分野を開拓して発生学の第一人者となり、*Plant tissue and organ culture—a symposium*, 1963 Delhi; *Recent advances in the embryology of Angiosperms*, 1963, Delhi を編集した。また *International Society of Plant Morphologists* の創設を企てその機関誌 *Phytomorphology* を発刊 (1951年)、昨年まで第15巻を発行し、今や全世界に会員と読者をもつ有数の国際雑誌の1つとなった。



P. Maheshwari 教授, 1954 年ベルサイユ宮殿前庭にて (小倉 謙)

足に当り創立委員として参画し、1954年パリにおける国際植物学会の帰途 Delhi 大学に M 教授を訪問したことがあった。同教授はかねて日本への来訪を希望していた所、その念願がかないこの5月8日夜東京着の予定であったが、病気のため来着延期の報があり、次に来たのは不幸にも彼の赴報であった。後便によれば、5月初め不快のため静養中、10日急変して入院加療したが18日死亡したという。謹んで冥福を祈る。なお国際雑誌 *Phytomorphology* は Delhi 大学の B. M. Johri 教授を中心として続刊を決定し、近く Maheshwari 教授追悼号を発行の準備中である。

(小倉 謙)

M 教授は1950年以降しばしば諸外国に渡り、研究の討論、講演を行ない、戦後の国際植物学会にも毎回出席し、広く世界の諸学者と交流した。発生学に関する専門書の編集、国際学会の建設などはそのために獲られたものであった。こうして今やインドの植物学の重鎮として、また世界の植物発生学の第一人者として M 教授に負う所が極めて大きくなった。

筆者は早くから文献などを通じて M 教授と交り、*International Society of Plant Morphologists* の発